

鳥取県との意見交換会（令和５年度）

鳥取県専門工事業団体連絡協議会

1 日 時 令和５年１１月９日 １０：００～１２：００

2 場 所 県庁議会棟３階第１２会議室

3 出席者

・鳥取県（９名）

総務部	営繕課	課長	下田	悟
		参事	川口	新二
		参事	山下	哲也
		課長補佐	遠藤	真由美
		課長補佐	衣笠	伸一郎
県土整備部	県土総務課	建設業・入札制度室		
		課長補佐	松原	裕司
		課長補佐	森下	和也
	技術企画課	課長	藤井	優樹
		係長	岡	秀樹

・鳥取県管工事業協会（４名）

会長（三団体会長）	荒川	恵
副会長（東部支部長）	古川	純一
副会長（西部支部長）	林	善博
事務局長	武田	太老

・鳥取県電業協会（５名）

会長	岡本	安量
副会長（東部支部長）	山本	淳
副会長（中部支部長）	寺地	建
副会長（西部支部長）	濱田	修
事務局長	太田垣	順

・鳥取県造園建設業協会（２名）

会長	西谷	勝之
副会長	門脇	敏夫

4 意見・要望 「別紙」

(令和5年度) 専門工事業団体連絡協議会「意見・要望」

鳥取県専門工事業団体連絡協議会

項目	内容
1 とっとり建設DXについて	<p>・現在、建設従事者数が大きく減少しており、特に若年者層の減少が著しい状況です。これは高卒・学卒の入職者が殆ど望めない状況と従事者の高齢化によるものと考えます。特に若年者の不足は、今後の建設業の発展の大きな課題となります。</p> <p>鳥取県では、鳥取県型建設生産体制の構築と云うことで、「とっとり建設DX」による働き方改革を提案されています。その内容は、</p> <p>① 担い手の確保と育成</p> <p>② ICT活用による生産性の向上</p> <p>③ 先端技術による管理効率化 を提唱されています。</p>
① 担い手の確保と育成	<p>・建設業界のイメージアップ</p> <p>若年者への建設業（専門工事業）のPRや魅力発信をお願いします。学校教育に於いて建設業（ものづくり）を選択する環境がなく、また地域の建築物に触れる機会も少ない現状にあります。</p> <p>資格取得に対する奨励金や補助金制度の拡充や、高い施工実績評価者には、その功績を表彰する等の処遇を行い、地位の向上を図ることをお願いします。</p>
② ICT活用による生産性の向上	<p>・工事関係書類の簡素化</p> <p>今年度よりASP（工事情報共有システム）が導入され、工事書類の効率が向上しました。今後はASPの更なる利便性を図るため、適時に発注者側と受注者側による、合理化と品質向上を図る勉強会の開催を希望します。</p>
③ 先端技術による管理効率化	<p>・週休二日制の導入</p> <p>次年度に向け全面的な週休二日制の導入が検討されていますが、週休二日制を実施した場合の工程管理・労務費や経費などは、どの様に検討されていますか。</p> <p>週休二日制に合わせ、業界においても4週8閉所を推進しておりますが、依然として土日の作業が求められ現場の実情は一向に変わりません。</p> <p>その一方で、土日の作業単価はそのままの状態であり、実際の労働単価とは大きく乖離しております。単価設定が低い現状の改善を是非ともお願いいたします。</p> <p>また、専門工事業者も無理なく施工できる工期管理設定をお願いします。</p>
2 交通誘導員の確保について	<p>・設計単価と市場単価の乖離</p> <p>交通誘導員の設計単価は、国交省の「公共工事設計労務単価」を基準としており、AとBそれぞれ一単価となっておりますが、昨今の人手不足により必要経費分が加わった警備会社からの請求書価格は高騰の一途にあり、設計単価と市場の実勢単価とは大きく乖離しております。</p>

項目	内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・実効性ある対応策の必要性 <p>現場の安全確保の観点から交通誘導員の配置は必須ではありますが、その確保は警備会社に頼らざるを得ず、専門工事業者が独自に有効な対策が講じることが困難な状況にありますので、交通誘導員を適正に確保できるよう行政サイドにおいて、設計単価の見直しなど実効性ある対応策のご検討をお願いします。</p>

(R 5 三団体)